

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「NECなど新会社 コンビニ払い、スマホで」
 - 2) 「高速SAに贅沢キャンプ場オープン 温浴施設、御殿場食材のコース料理も」
 - 3) 「かずさDNA研、世界初“キヌア”ゲノム解読 食糧問題解決に期待」
 - 4) 「現在地の地盤のスコアをタイムリーに知ることができる“じぶんの地盤アプリ”」
-

1) 「NECなど新会社 コンビニ払い、スマホで」

NECと三井住友銀行は来年初めにも、スマホを持っていけば用紙なしでコンビニで公共料金や通販代金を支払えるサービスを始める。共同で新会社を立ち上げ、既にファミリーマートなど大手数社と交渉に入った。スマホにバーコードを送る仕組みで、年間10億件にも上る収納用紙の送付・保管の手間やコストを減らせる。

新会社の出資比率はNECが約85%、三井住友銀が約15%。電力・ガス会社、通販の運営会社、水道や税金を徴収する地方公共団体などと交渉を始める。コンビニ側もセブンイレブンやローソンと交渉を本格化させる。

同サービスは三井住友銀の預金者でなくても利用できる。利用者は専用アプリをスマホに取り込む必要がある。あとは支払いごとにバーコードがスマホに送られてくる。コンビニで店員にスマホを見せ、読み取り機を当ててもらえば支払い可能となる。セブンでは電子マネー「nanaco」で支払えるので、用紙も現金も不要となる。

スマホ上で公共料金で使われる横幅が長いバーコードを読み取る技術は難しい。NECが独自技術を開発し、事業化につなげた。

代金決済は預金口座からの自動引き落としやクレジットカード、電子マネーなどもあるが、申し込みの手続きが必要だ。忙しい人や面倒な手続きを嫌う人がコンビニで支払うケースが意外に多い。個人情報の流出を恐れ、あえてコンビニ収納を使う例もある。

セブン、ローソン、ファミマの合計年間取扱件数は2015年度約8.6億件、金額では約9兆円弱に上った。電力会社などは預金口座からの自動引き落としなどを呼びかけているが、11年度と比べると件数で約2割、金額で約3割増加した。このため電力会社などの郵送費負担は年々重くなっている。コンビニも納付された用紙などを保管する手間がかかる。

今回の新サービスは通販などで購入した商品をコンビニで受け取る際に、本人確認としても使える可能性がある。銀行のキャッシュカードやクレジットカード、電子マネーを多数保有する人は多く、スマホで一元管理できれば、利用者の利便性の向上につながる。

日本のコンビニはアジア各国などに進出しており、両社は類似のサービスが海外でも展開できないか今後検討していく。

先行する米国ではJPモルガン・チェースが割引クーポンの販売サイト運営会社を傘下に収め、シティグループが安価な国際送金サービスを手がけるベンチャー企業を買収した。国内ではコンビニが地域社会に根付いており、新しい仕組みとして普及する可能性がある。

エネルギー、サービス提供側にとっては紙媒体にかかる費用の削減、コンビニ側は用紙の保管場所や作業の減少など、メリットの多いサービスのように思える。しかし、すべての情報をスマホで管理する個人の負担は増えてしまうのではないだろうか。スマホひとつなくして

しまえば個人情報全て流れてしまうという危機も感じられる。サービスの簡易化に伴い、セキュリティ面のサポートも進んでいけばより便利で利用しやすいサービスになるだろう。

2) 「高速SAに贅沢キャンプ場オープン 温浴施設、御殿場食材のコース料理も」

8月27日、東名高速上りの足柄サービスエリアにグランピング施設「el colina」（エルコリーナ、スペイン語で「丘」の意）がオープンした。
来年8月末までの1年間の期間限定。「次世代の豪華で快適なキャンプ」を楽しむためのこの施設では、温浴施設のほか、主に御殿場周辺の食材を使ったカジュアルなコース料理も堪能できる。

「グランピング」とは、「グラマラス」と「キャンピング」を掛け合わせた造語で「豪華で快適な空間で自然を楽しむことができるキャンプスタイル」として最近注目を集めている。施設ではトレーラーハウス、グランピングテント、キャンパス地のレギュラーテントを用意。居室には南フランス、プロヴァンス発のブランド「ロクシタン」のアメニティーのほか、海外ブランドの洗練された家具がそろえられているという。
宿泊料金は▽トレーラーハウス：3万円～/棟、3棟（3種類）、定員4人▽グランピングテント：3万円～/棟、2棟、定員2人▽レギュラーテント：2万円～/棟、5棟、定員4人。
代金には朝食とSA内の温浴施設料金が含まれる。また、別料金（5000円）で宿泊客を対象に御殿場周辺の食材を取り入れた、前菜・メイン・スイーツからなるカジュアルなコース料理も用意される。

メニューの内容は、前菜「御殿場産 鶴首（つるくび）かぼちゃの冷製ポタージュ」「パクチーのスパニッシュオムレツ」「あしたか牛のローストビーフと長いもまづま山葵添え」「魚介とキヌアのグリーンサラダ」、メイン「ふじのすそのポーク肩ロースの炭火焼き」「季節の野菜グリル（とうもろこし、山芋、ズッキーニなど）」「御殿場産こしひかりのライス」、スイーツ「オーガニックバナナケーキと無花果（いちじく）のメープルシロップがけ」など。

NEXCO中日本の広報担当者によると、この「el colina」の対象は高速道路の利用者すべて。「キャンプ初心者の方には、温浴設備も用意されておりますので体験しやすいかと思えますし、キャンプに慣れている方にも新しい形のキャンプを楽しんでいただけると考えているとのこと。1年間開催してみて、利用状況をみながら今後の展開を検討していくという。

SAの進化によって「通過点」から「目的に」になって久しいが、キャンプ気分までも味わえらるれば、ますますその傾向が強まると思う。単なる宿泊施設ではなくグランピングというのが話題を集めるだろうしそれほど高くない料金も魅力的だと思う。1年後にどうなっているか注目したい。

3) 「かずさDNA研、世界初“キヌア“ゲノム解読 食糧問題解決に期待」

かずさDNA研究所（千葉県木更津市）は、健康食品として注目される南米原産作物「キヌア」のゲノム（全遺伝情報）配列解読に世界で初めて成功したと発表した。塩害に強い特性

を持つ遺伝子も判明。食糧問題の解決だけでなく、栽培しやすい新品種の開発も期待されるという。

キヌアは実が直径1-3ミリほどの雑穀。高タンパクで栄養価が高く、痩せた土壌など過酷な環境でも栽培できることから、国連が2013年を『国際キヌア年』に指定するなど、飢餓の撲滅に向けた“救世主”になり得る存在。悪玉コレステロールを減らすとされる不飽和脂肪酸のリノレン酸などを含み、健康食品としても注目を集めている。

これまで遺伝子レベルでの解析が進んでおらず、性質の研究が遅れていた。雑種が生じやすく、どの親個体から来た遺伝子かが把握しにくい上、ヒトなどと比べてゲノム配列が複雑だった。

かずさDNA研究所によると、京都大学（京都市）などと共同で純粋な品種のみを何世代にもわたって育て、解読を行い、生命の設計図と言われるゲノム配列の73%を明らかにした。塩害に強い特性を持つ遺伝子も判明した。

ゲノムのデータベースはインターネットで公開。キヌアの高い環境適応性や栄養特性に重要な役割を果たす遺伝子を明らかにする研究が進むと期待される。

耐塩性を持つ遺伝子をイネなどの他の作物で見つけることができれば、塩害に強く、栽培しやすい品種の開発につなげることができるという。

スーパーフードがここ数年話題になり日本にも一般的に馴染んできた。これがきっかけで身体に良いだけでなく、飢餓や干ばつなどの世界的問題に応用を期待できるようになる。食糧問題で苦しむ地域の人々を救うカギを日本が開いたということに誇りを感じた。

4) 「現在地の地盤のスコアをタイムリーに知ることができる“じぶんの地盤アプリ”」

地盤に関する生活者の情報格差解消を目指す地盤ネットホールディングス株式会社が開発した、現在地の地盤リスクの目安をタイムリーに知ることができるスマートフォン、タブレット端末対応のウェブサービス「じぶんの地盤アプリ」を、地盤ネットHD子会社の地盤ネット株式会社から、2016年8月1日より無料提供を開始した。

「じぶんの地盤アプリ」とは、位置情報から即座に現在地の地盤リスクの目安、地盤の安全性を簡単に知ることができるウェブサービス。また各地点で発生した地震の回数と地震の規模（マグニチュード）を最新情報として地震発生マップで確認することもできる。インターネット環境を備えたすべてのデバイスで通信環境があれば、どこでも誰でも地盤や地震情報を知ることができるサービス。

地盤ネットホールディングスでは、安心・安全な土地探しやリスクを知った上での土地選びや災害対策を行うことで、災害による被害を最小限に抑えることが可能なことを、多くの方に伝えることが必要であると考えている。まずは生活者の皆様に地盤に対しての意識を持っていただくことを目標に、研究開発を手掛ける地盤ネット総合研究所と連携し、専門的な知識がなくても誰でも簡単に地盤の安全性やリスクを知ることができるよう本サービス「じぶんの地盤アプリ」を開発した。

1. 現在地の地盤情報を表示
天気予報のようにわかりやすく地盤情報をスコアで表示。
2. 地震情報がわかる！

過去24時間、7日間、30日間の地震発生位置と震度を地図上に表示。（地震発生マップ）

3. GPS機能があればどこでも簡単に利用できる

ブラウザで動作するためPCやタブレット端末、スマートフォン（iPhone、Android）などインターネット環境を備えたすべてのデバイスに対応。

■「じぶんの地盤アプリ」使い方 詳細

1、URL（<https://jibunnojiban.jp>）にアクセス

2、位置情報から即座に現在地の地盤リスクを判定。地盤安心スコアが表示。

3、「改良工事率」「浸水リスク」「地震による揺れやすさ」「土砂災害リスク」「液状化リスク」の5項目から判定され、現在地の地盤リスクを視覚的に知ることができる。

※「地盤安心スコア」は、地盤カルテ（災害リスクを点数化するシステム（特許出願中））による、無料WEB診断サービス）における、5項目、100点満点のスコアを表示。公的機関より発信されている地図情報と当社解析基準により出された近隣の地盤判定結果を組み合わせ点数化したもの。あくまで地盤リスクの目安であり、正確な判断をするためには地盤調査が必要。

地震の多く発生する日本では地盤の強さに対しても関心がある人は多いと思う。住宅購入する際や自分の実家の地震情報などが簡単に分かれば対策も講じられるので少なからず安心感が得られる。日本初のアプリでしかも無料という点において利用する人は多いのではないかと思った。